

○吉本議長 通告2番目、13番、奥田富代子議員、発言席から一問一答方式で質問願います。

奥田富代子議員。

○奥田議員 おはようございます。

13番、奥田富代子です。議長の許可を得ましたので、通告に従い一般を質問させていただきます。

1つ目、一乗閣について3点、2つ目、みんなのメダルプロジェクトについて4点、3つ目、介護予防について2点、質問させていただきます。

まず、一乗閣について。

この夏、和歌山県観光局長に、和歌山県の観光戦略についてお話を伺いました。和歌山県を訪れる観光客は年々増加しており、28年度は前年比104.4%、3,487万人とのことでした。県では、テレビ、ラジオ、雑誌、新聞等さまざまなメディアを活用し、まだまだ知られていない和歌山の魅力に関する情報発信と提案をしています。

その中で、岩出市に関するものは、テーマ「水の国、わかやま。」の中で、紀の川の伏流水で醸造している吉村秀雄商店が紹介されていました。さらに、わかやま歴史物語としては、72万石を誇った巨大宗教都市として根来寺を取り上げています。

岩出市では、根来寺周辺観光促進事業としての道の駅「ねごろ歴史の丘」の建築工事が着工し、年内のグランドオープンが待たれるところです。根来寺周辺に位置する旧和歌山県議会議事堂である一乗閣は、この夏、7月31日に重要文化財として指定を受けました。重要文化財が市にあるということは大変名誉なことです。この一乗閣を岩出市の観光資源として生かすべきと思います。

そこで、市民の方々に一乗閣について知っているかと尋ねると、知らないと答える方が多く、残念な思いをしています。今後、もっと岩出市を含み、和歌山県内外の方に一乗閣を知ってもらう仕掛けが必要なのではと感じています。

1点目、オープン後の入場者数と施設の利用件数をお教えてください。

次に、岩出市以外の他市から来た人が根来インターでおりて一乗閣に向かったが、案内標示がわかりにくかった。カーナビの案内で向かったが、赤井工作所や根来SL公園に行ってしまったと聞きました。

2点目、案内標示をわかりやすくする考えは。

3点目、竹灯籠、紙コップランタン等でキャンドルイルミネーションをするなど、市民の方々と協力してイベントを開催するなどの仕掛けで、他市からの観光客の増加につなげてはどうでしょうか。

以上で、1回目の質問を終わります。

○吉本議長 ただいまの1番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。
事業部長。

○船戸事業部長 おはようございます。

奥田議員のご質問、一乗閣について、一括してお答えいたします。

1点目、旧和歌山県議会議事堂（一乗閣）の入場者は、平成28年4月1日のオープン以来、平成28年度は1万2,751人、平成29年度は8月末現在3,281人、合計1万6,032人となっています。

施設の利用件数につきましては、平成28年度は14件、内訳として、市・県等主催7件、ねごろ歴史の丘観光推進協議会主催2件、一般貸し出し分5件となっています。平成29年度は8月末現在8件、内訳として、市・県等主催3件、一般貸し出し分5件となっています。

2点目、案内標示がわかりにくい件につきまして、旧和歌山県議会議事堂（一乗閣）の案内標示につきましては、県道泉佐野岩出線に3枚と施設の道向かい「ねごろ歴史の丘」の看板に標示してございます。標示の方法は、正式名称である旧和歌山県議会議事堂、その後ろに、岩出市民に親しまれた愛称である一乗閣と括弧書きで記載しております。

また、現在進めている道の駅の整備と並行して、施設の案内看板等の設置も行い、既に国道24号備前交差点と県道泉佐野岩出線、岩出根来インター南交差点では、「道の駅ねごろ歴史の丘」の案内標識の設置が済んでおります。

今後は、「道の駅ねごろ歴史の丘」として、案内標示や情報提供に力を入れるとともに、旧和歌山県議会議事堂（一乗閣）など、個々の施設についても広く皆様に知っていただけるよう案内に努めてまいります。

なお、カーナビの地図情報は順次更新されますが、道の駅につきましては、比較的早く地図に登載されるようであります。最近では、Googleマップに「道の駅ねごろ歴史の丘」、「旧和歌山県議会議事堂」、「ねごろ歴史資料館」も登載されております。

3点目、市民と協力し、一乗閣を盛り上げるイベントの開催や仕掛けが必要ではとのご質問につきまして、旧和歌山県議会議事堂（一乗閣）は、市の観光の拠点施設であり、市外や県外からの観光客誘致のため、商工会、観光協会、飲食業組合など7つの市内各種団体等から構成する「ねごろ歴史の丘観光推進協議会」と力を合わせ、観光振興に取り組んでおります。観光施策の実施に当たりましては、市民の

皆様を含め、広く関係者の方々のご理解とご協力が不可欠でございます。今後も観光PRやイベントの開催など積極的に取り組んでまいりますので、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

○吉本議長 再質問を許します。

奥田富代子議員。

○奥田議員 一乗閣を含め、今後、観光振興をどう展開されていかれるのか、お聞かせください。

○吉本議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

事業部長。

○船戸事業部長 今後の観光振興の取り組みについてですが、7月31日に旧和歌山県議会議事堂（一乗閣）が重要文化財に指定されたことや、ねごろ歴史の丘が道の駅の認定を受けたことなど、この機会を大きな弾みとして、今後も観光客誘致に向けたPRやイベントの開催など、積極的に取り組んでまいります。

まず、12月には「道の駅ねごろ歴史の丘」のグランドオープンを予定しております。昨今の道の駅ブームにより、道の駅自体が観光の目的地となっており、旧和歌山県議会議事堂やねごろ歴史資料館があり、根来寺に近接するねごろ歴史の丘は、市の観光拠点として大きく期待できるものであります。

ねごろ歴史の丘は、岩出根来インターからすぐの距離にあることに加え、周辺にはSL公園、緑化センター、げんきの森など魅力的な施設が多数あり、これらを組み合わせた現地プランの提案などを進め、バスツアーなど団体客の誘致を積極的に行います。

また、飲食と買い物は観光の楽しみの大きな要因であります。現在、建設中の道の駅の新施設におきましても、約120平方メートルの物販店を設置し、和歌山県の玄関口として県内のお土産物全般を広く取り扱う予定であり、一角には軽食コーナーも設け、例えば、ソフトクリーム、コロッケなど名物となるような食べ物も開発してまいります。

同時に、現在営業中のお食事所どころやお弁当などよりよいものとなるように、改良を重ねる必要があると認識しております。

いずれにしても、実際に運営するのは「ねごろ歴史の丘観光推進協議会」を初めとする民間事業者でありますので、その選定に当たっては、有力な事業者を確保するため、市内事業者だけでなく、視野を広げて対応する必要もあると考えています。

今後も岩出市の地方創生の基幹事業として観光促進を図ってまいりますので、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

○吉本議長 再々質問を許します。

(なし)

○吉本議長 これで、奥田富代子議員の1番目の質問を終わります。

引き続きまして、2番目の質問を願います。

奥田富代子議員。

○奥田議員 次に、みんなのメダルプロジェクトについてお伺いします。

広報いわで8月号に掲載されているみんなのメダルプロジェクトについての質問をさせていただきます。

これは東京オリンピック・パラリンピックに向け、家庭に眠っている使用済みの小型家電、携帯電話やパソコン、デジタルカメラなど、いわゆる都市鉱山をリサイクルして、メダルをつくろうという運動です。本年4月1日から始まりました。大会メダルの100%リサイクルを目指す試みは、オリンピック・パラリンピック史上初とのことです。環境省によりますと、日本では、年間65万トンの小型家電が使われなくなっており、その中には844億円分もの貴重な金属が含まれているとのことです。東京大会では、金・銀・銅合わせて5,000個のメダルが必要とのことです。岩出市では、みんなのメダルプロジェクトが始まる前から小型家電の回収を行い、リサイクル事業に取り組んでおられました。

1つ目、岩出市はいつから小型家電の回収を行っておられますか。

2つ目、ことし8月までにどれぐらい回収されましたか。

3つ目、みんなのメダルプロジェクト運動が提唱されてからは、その趣旨に賛同し、参加しているわけですが、この取り組みが市民に十分周知されているとお考えでしょうか。始まってまだ日が浅いこともあり、さらなる啓発の必要性を感じるどころです。

4つ目、市民運動会や文化祭などの各種行事において、啓発活動を行う考えはありませんか。岩出市の各家庭に眠っている小型家電をオリンピックメダルに生まれ変わらせるという夢のあるリサイクルを通じて、空き缶や段ボール、古紙など資源のリサイクル率が向上することを願っています。

以上で、1回目の質問を終わります。

○吉本議長 ただいまの2番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部長。

○山本生活福祉部長 奥田議員ご質問の2番目のまず1点目について、お答えいたします。

本市では、使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律に基づき、平成26年度に事業者提案型の小型電子機器等リサイクルシステム構築実証事業に参画し、平成27年度から小型家電回収事業として、市内11カ所でのボックス回収、岩出クリーンセンターでのピックアップ回収、地区公民館などでの拠点回収により実施しております。

次に、2点目の小型家電の回収量につきましては、平成27年度が7万3,360キログラム、平成28年度が7万485キログラム、平成29年度につきましては8月末現在で3万48キログラムを回収しており、現在までの回収量は17万3,893キログラムで、平成26年度実証事業分を合わせますと19万2,812キログラムとなっております。

次に3点目、市民に十分周知されているかにつきまして、一般的な小型家電回収に関する啓発としましては、市広報紙や市ウェブサイトへの掲載、粗大ごみ申し込み受け付け時などにおいてのチラシ配布などによる啓発を行っております。

メダルプロジェクトに関しましては、各回収ボックスに啓発用マグネットシートを貼付したり、庁内にポスターを掲示するなど周知に取り組んでおります。

また、本年6月に実施いたしました小学校への環境学習出前事業におきましても、小型家電リサイクルから抽出される金属で、東京オリンピック・パラリンピックのメダルがつくられることを児童に対して周知したところです。

4点目の啓発活動につきましては、市が主催する行事において普及に取り組んでいるところであり、メダルプロジェクトを含め、今後も継続して行ってまいります。

以上です。

○吉本議長 再質問を許します。

奥田富代子議員。

○奥田議員 今まで回収した小型家電からオリンピックメダルに充てられる資源はどれぐらいありますか、お聞かせください。

○吉本議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部長。

○山本生活福祉部長 再質問にお答えいたします。

平成26年度の実証事業から平成29年、本年8月末現在で、メダルの資源となる回収量は、金で0.36キログラム、銀で15.64キログラム、銅で1万1,216.8キログラムとなっておりますが、全てがメダルの資源になるというものではありません。

以上です。

○吉本議長 再々質問を許します。

(なし)

○吉本議長 これで、奥田富代子議員議員の2番目の質問を終わります。

引き続きまして、3番目の質問を願います。

奥田富代子議員。

○奥田議員 次に、介護予防についてお伺いいたします。

日本人の平均寿命は、男性は80.75歳、女性は86.99歳と発表されました。平均寿命は年々延び、高齢者の占める割合も年々ふえ続けています。市民の介護保険に係る費用が増大する中、抑制は大きな課題であります。その対策としては、生活習慣病の予防や健康寿命を延ばすことなどが上げられます。

岩出市では、住みなれた地域で、いつまでも自分らしく生活するために、岩出げんき体操応援講座を開き、自主的に運動に取り組もうとしている団体を支援しています。岩出げんき体操やシニアエクササイズは、高齢者の活動性を高め、虚弱化を防止し、介護予防に大いに役立つものです。

1つ目、介護予防運動の自主活動を行っている拠点数と参加者数をお教えてください。

次に、フィットネスクラブ運営会社から運動と食事管理を組み合わせた独自のダイエット法の提供を受け、高齢者の介護予防を支援する動きが各自治体で広がってきたという話題が新聞に掲載されていました。それによると、フィットネスクラブ運営会社は、過去5年間に蓄積した約9万人の顧客データを分析し、肥満の原因になる糖質を抑えた食事メニューをメールなどで伝えて、管理し、トレーニングも続けられるようメンタルサポートも充実させたところ、高齢者でも減量と筋肉量のアップが認められたとありました。

最近、筋肉からホルモン、マイオカインというホルモンが分泌され、糖尿病、動脈硬化、大腸がん、認知症、鬱病などを予防すると話題になっています。すなわち運動によって筋肉量をふやすことが、健康寿命を延ばし、介護予防につながると考えます。

2点目、フィットネスクラブが自治体に協力して、運動プログラムを伝授するという取り組みが各地で行われていますが、市の考えはいかがでしょうか。

○吉本議長 ただいまの3番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部長。

○山本生活福祉部長 奥田議員ご質問の3番目、介護予防についての1点目、介護予防運動の拠点数と登録者数について、お答えいたします。

介護予防の自主活動に取り組んでいるグループは、市が実施いたしましたシニアエクササイズ教室を修了した方たちで構成するグループが、現在、11グループ193名となっております。また、平成28年度から実施しております岩出げんき体操応援講座を受講後、自主活動に取り組んでおられるグループは6グループ68名となっております。

次に、2点目、フィットネスクラブが自治体に協力し、運動プログラムを伝授する取り組みを取り入れる考えは。についてお答えいたします。

岩出市における介護予防の取り組みは、シニアエクササイズ教室、それから岩出げんき体操応援講座等の介護予防教室の実施と教室修了後の自主グループ活動支援を柱として実施しております。市では、これらの取り組みを通して、介護予防だけではなく、高齢者同士のつながりも大切にして事業を進めているところです。

議員ご質問のフィットネスクラブからの市スタッフに対する事業実習のノウハウの指導に対しては、現在のところ考えておりません。

以上です。

○吉本議長 再質問を許します。

奥田富代子議員。

○奥田議員 介護予防運動の自主活動グループにどのような支援をされていますか。

また、先行している他の自治体を参考に考える考えはありませんか。

○吉本議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部長。

○山本生活福祉部長 再質問にお答えいたします。

まず、1つ目の再質問でございますが、自主グループに対してどのような支援を行っているのかという点でございますが、シニアエクササイズの自主グループ活動支援としましては、年1回、運動指導士による運動方法等の再指導、あるいは体力測定を実施しております。それから、岩出げんき体操におきましては、自主活動開始後、6カ月ごとに理学療法士による運動方法の再指導と、それから体力測定を実施し、運動継続への支援を行っております。市としましても、引き続き自主グループ活動への支援を行ってまいりたいと考えております。

それから、2つ目、他の自治体を参考に考えるという点でございますが、全国的には、フィットネスクラブ等を活用した介護予防事業を実施している自治体が

あるということは聞いております。この近隣では奈良県五条市において、民間のフィットネスクラブから市のスタッフが介護予防における食事管理、指導方法等の指導を受け、介護予防事業に取り組んでいるとのことでした。

岩出市におきましては、シニアエクササイズ教室は、既に法人に委託して実施しているということから、法人スタッフに対してフィットネスクラブから実施ノウハウの指導というのは想定しにくいと考えております。しかしながら、他の自治体の取り組みにつきましましては、今後とも幅広く研究してまいりたいと考えております。

以上です。

○吉本議長 再々質問を許します。

(なし)

○吉本議長 これで、奥田富代子議員の3番目の質問を終わります。

以上で、奥田富代子議員の一般質問を終わります。